

第4回 一宮川流域における令和5年台風第13号による災害検証会議 議事概要

- 1 日時 令和6年7月5日（金）14：00～16：00
- 2 場所 千葉県庁中庁舎10階大会議室
- 3 出席 加藤座長、二瓶委員、服部委員、高橋オブザーバー

4 委員からの意見

(1) 今次水害の概要

- ・ 事務局から資料1「今次水害の概要」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
 - 1/10 確率規模を目指して整備しているところに 1/180 確率規模の雨が降った。
 - 完成堤防でものり面崩れが発生しているなど、長時間、計画高水位を超えたことが要因といえる。さらに川だけでなく、内水の影響も受けて、変状がより拡大していったと思われる。
 - 計画高水位を大きく超えて、堤防天端ギリギリの高さまで3～4時間程度水位上昇しており、堤防にとって相当の負荷であったことも特徴的である。
 - 変状の要因は、1/180 確率規模の降雨により、計画高水位を超える洪水が長時間続いたことである。施工不備の箇所を除き、仮締切堤防には不備は無かったと結論づける。

(2) 浸水要因の分析

- ・ 事務局から資料2「浸水要因の分析」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
 - 再現性の高いシミュレーションモデルであり、画像等の事実関係を基にして丁寧に作られている。
 - シミュレーションモデルは今回の検証に対して目的を十分に果たせるものである。
 - ②変状なし、③施工不備も変状もなしのケースでの最大浸水量の比較にあたり、統計的（マンホイットニーのU検定）に差が無い事を確認した。
 - シミュレーションモデルは施工不備の影響確認のほか、河川整備の効果や今後の浸水対策のあり方を検討できるものである。仮締切堤防の施工不備の影響はほぼなしと判断する。

(3) その他

- ・ 事務局から資料3「とりまとめ要旨（案）」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
 - 河川整備効果が、確実に見えている。着実に進めてほしい。しかし、1/180 確率規模など大きな雨が降れば氾濫することもあることを理解してもらう必要がある。
 - 今回の結果から、計画高水位を超え、さらに越水すると、あっという間に浸水深が深くなることがわかる。また、早い時間帯から内水の影響もあるため、これらの結果を見て早めに避難すること、内水対策にも力を入れることを考えていくべき。

➤ 今回資料で示された、令和 11 年度迄の河川整備後の氾濫状況が、今後の議論の入り口となると理解した。一宮川は全国の流域治水でも先駆けとなる事例である。引き続きトップランナーとして進めてほしい。

・ 会議の結果、加藤座長より以下のとおり、会議結果がとりまとめられた。

(1) 今回の雨は 1/180 確率規模という非常に大きな雨であり、洪水水位が計画高水位を 10 時間程度超過し、堤防天端ギリギリの高さまで 3～4 時間水位上昇した。

(2) 今次水害の浸水要因の一つである仮締切堤防の変状については、計画高水位を超える洪水によるものであり、施工不備を除けば、仮締切堤防に不備はなく、変状はやむを得なかった。

(3) シミュレーションモデルは十分に妥当性の高いモデルを構築できた。

(4) シミュレーションモデルを使って検証した結果、仮締切堤防の施工不備による浸水被害への影響はほぼなかった。

・ 次回なるべく早い時期に、今後のあり方を議論する。

以上